

視察先について



1. 各分野の視察先候補

■福祉（4名）

案1：maru（茨木市立総持寺いのち・愛・ゆめセンター）

案2：ハートフルいばらき

■教育（5名）

案1：古民家ナガヤもんにて落語会

案2：maru（茨木市立総持寺いのち・愛・ゆめセンター）

案3：ユースプラザWESTいばらきLOBBY

（豊川いのち・愛・ゆめセンター分館内）

■環境（4名）

案：環境衛生センター

■多文化共生（5名）

案：豊川いのち・愛・ゆめセンターと大阪茨木モスク

2. 今後の流れについて

- ・ 欠席者の日程をslackやメールにて調整し、最終確定を行う。
- ・ 他分野の視察先でも、参加者の日程が調整できれば参加可能とする。
- ・ Slackで、事前にどんなことを聞きたいか意見を出し合う。



令和7年度茨木市主催

つどい、つながる 文化の会議

第3回

実施報告書

令和7年9月19日

茨木市

サントリーパブリシティサービス

目次



1. 私たちのゴール...P.32

2. 実施概要（福祉）...P.33

3. 実施概要（教育）...P.35

4. 実施概要（環境）...P.37

5. 実施概要（多文化共生）...P.39

6. 実施概要（福祉・教育）...P.41

7. アンケート...P.43

私たちのゴール



最終ゴール

文化芸術をきっかけに、誰一人取り残さない社会をつくる。他の団体や他者と積極的につながり、つなげる役割「=市民アートコーディネーター」を担う



今年度のゴール

市民アートコーディネーターとして必要なスキルや関係性の築き方を学び、文化芸術×他分野の取組みを知ることで他者や他団体とつながるアイデアを考える



第3回のゴール

活動を理解する、対話

実施概要（福祉）



1. 日時

令和7年8月30日（土）14:00～16:00

2. 視察先/分類

障害福祉センターハートフル/他分野

3. 参加者

3名（引率：茨木市能勢 秋本、SPS筑後）

4. 視察内容

【選定理由】

ハートフルで実施されている展示などに関心がある。
施設や活動の詳細を知ること、文化芸術との接点を見つけたい。

【当日の様子】

館内視察、ダンスの講座を体験し、代表者との対話を実施。

【視察対応】

- ・ 社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団
茨木市立障害福祉センターハートフル所長 原様
- ・ 福祉啓発ユニット LanT'rkいばらき 代表責任者 瀧本様

5. 記録写真



スケジュール



時間	内容	進行
13:20	茨木市・SPS集合	
13:40	原所長、瀧本様と打ち合わせ、進行確認	
13:50	参加者集合・説明	SPS
14:00	ハートフル館内を視察 ・アフリカ民族楽器「ジャンベ」講座に参加 ・障害福祉サービス等の説明 ・館内設備や作品紹介	原所長
14:30	講義	原所長
	講義	瀧本様
15:30	質疑応答	茨木市・SPS
16:00	終了	

振り返り（一部抜粋）

<新たな気づきや発見>

- ・障害がある方が、生活する場の様々な工夫を知ることができた。そういう場に文化芸術が溶け込んでいて、表現を自由に身近にできる環境が地域にあるのは素晴らしいと思った。
- ・イベントや作品展をすることで、開かれた場所で色んなアートと人が交わることができる。それが地域の力UPにつながっていくと気づいた。

<文化芸術と接点を持ってそうなポイント・あるいは実践している場の良い点>

- ・作家さんや作品、一つ一つを大切にする。
- ・「創る」「見る」どちらもアクセシブルにするための工夫がしたい。
- ・福祉軸、文化軸どちらに重きをどうやって置くか考えていきたい。
- ・福祉軸ではなく、アートとしての展示を行う。それを一般の方が気軽にみることができる場や企画があると良い。

実施概要（教育）



1. 日時

令和7年8月31日（日）13:00～16:00

2. 視察先/分類

ナガヤもん/他分野連携事例

3. 参加者

3名（うち1名主催、引率：茨木市松本 能勢 秋本、SPS筑後）

4. 視察内容

【選定理由】

伝統文化を身近に体験できる場の運営を知りたい。
高齢者の居場所づくりや親子での体験教室など幅広く活動しているから。

【当日の様子】

「ナガヤもん寄席”京”と”ナニワ”の大学落研交流会」を鑑賞。

【視察対応】

いばらき古民家再生・保存活用の会 ナガヤもん様

5. 記録写真（ナガヤもん様撮影）



令和7年8月31日 ナガヤもん寄席「京」と「ナニワ」の大学落研交流会 実施状況

スケジュール



時間	内容	進行
12:50	茨木市・SPS集合	
13:00	参加者集合・説明	SPS
13:15	会場入り	
13:30~16:00	寄席鑑賞	ナガヤもん様

振り返り（一部抜粋）

<新たな気づきや発見>

- ・お年寄りから子どもまで、色々学び続けることが健康につながると思う、心が明るくなる。
- ・楽しい体験がたくさんできるナガヤもんさんの活動は良いと思った。入口を入った途端別世界が広がっていて、それもまた異文化ともいえるような気がした。
- ・自宅を改装し、交流できるような場をつくろうと思ったきっかけや、様々な企画を実施している理由について、より知りたいと思った。
- ・「文化」というものはたくさんある中で、なぜ落語をフォローしようと思ったのか知りたい。

<文化芸術と接点を持ってそうなポイント・あるいは実践している場の良い点>

- ・お互いに新しい、普段知らない分野を知ることは良い刺激になると思う。そういう多面的な視点が今後大切だと思った。興味がなくても知らない文化に関心を持ち、実際にやってみたり話を聞いてみたりすることが大事。私自身、落語に興味はなかったが、面白いと思った。イベントを立ち上げて、多文化・多楽器でお互いの世界観を見つけ合うのが良いと思う。
- ・「時間」「ルール」など制約が多いので自由に企画ができるの良い。
- ・文化の発信体験拠点を自分でつくっていて良いと思った。
- ・チラシ、商店街のポスター、「広報いばらき」などで、告知を見たことがあり、紹介の仕方含め、全部自分でやる姿勢が良いと思った。



実施概要（環境）

1. 日時

令和7年9月2日（火） 14:00～16:00

2. 場所/分類

茨木市環境衛生センター/他分野

3. 参加者

3名（引率：茨木市秋本、SPS榛葉）

4. 視察内容

【視察理由】

生活と密着したゴミに関する現状や課題を知り、文化芸術を通して、身近に感じてもらうことはできないか、ヒントを探りたいため。

【当日の様子】

環境衛生センターの職員より、施設内の案内を実施。

参加者同士で文化芸術と環境をかけたアートイベントなどの事例を通してアイデアを話し合った。

【視察対応】

環境衛生センター職員

5. 記録写真



スケジュール



時間	内容	進行
13:00	茨木市・SPS集合	
14:00	参加者集合・説明	SPS
14:10	ゴミ処理工程のビデオ視聴 質疑応答	環境衛生センター市職員
14:30	質疑応答 参加者同士で意見交換	茨木市・SPS
16:00	終了	

振り返り（一部抜粋）

<新たな気づきや発見>

- ・ゴミの半分は水分ということ。減らすためにアートの力で「やってみよう」という入口をつくる。
- ・役所任せではなく、住民でできることを増やす。
- ・現状の行政と市民生活の実態を詳しく知ることができた。これを市民の文化活動につないでいくために市民にゴミと資源について自覚をもってもらう活動が必要だと思った。それが文化活動に対する意識を高めるものだと思う。
- ・視察を通して、ゴミ処理の工程やゴミの捨て方について把握できた。

<文化芸術と接点を持ってそうなポイント・あるいは実践している場の良い点>

- ・ゴミをかき集めるクレーンを真似たクレーンゲームで、子どもたちにゴミ収集を身近に体験してもらう。
- ・自分たち、身の回りのせまい地域でできることは何か、考えるきっかけづくりになるイベントをしてみたい。
- ・発酵、コンポストワークショップ、廃材を集め展示する。
- ・文化芸術はあくまで個人の自由な発想を表現することにより成り立つもの。文化と無縁なテーマについても自由な意志で問題設定をして、文化活動に活かしていくことが大事。